

令和6年度 宮崎北高等学校 学校関係者評価表

1. 本校ならではの魅力つくり		達成度	達成度	学校達成度評価	平均	校関係者評	学校関係者評価コメント
部・学年等の実践内容	① 安心・安全な教育環境の維持	4月～9月	10月～3月	年間	4.2	4.0	<ul style="list-style-type: none"> 施設・設備の老朽化により生徒の事故や怪我に繋がらないよう定期的な修繕をお願いしたい。 グラウンド整備上の安全性の確保を引き続きお願いします。 地震により周辺の道路が寸断され、孤立する可能性が十分にあると感じる。被災時の備えも進めていただきたい。 薬物が身近になっている現状、啓発や家庭教育が必要と感じる。 安心安全な学校に向けて積極的な取組に期待する。
	生徒指導部	校内の活動時間の確認と遵守	5	4			
		教室周辺の安全点検の実施	4	4			
		部室ならびに部活動における安全点検の実施	3	3			
		危機管理マニュアルに基づいた日常からの備え	4	4			
		スマホ・タブレットを使用する際の安全教育	4	4			
		生徒の健康管理 ④	5	5			
		安心して授業を受けることのできる環境整備	3	4			
		安心して部活動に専念することができる環境づくり	4	4			
		アンケートやアセス調査の活用・いじめの未然防止	4	5			
部・学年等の実践内容	図書部	教育相談部や教育支援コーディネーターと連携し、生徒の「心の居場所」として活用。読書活動を活性化するため、ビブリオバトルの大会を拡大。	4	4	4		
	環境保健部	定期健康診断後の指導の徹底及び保護者との連携	4	4	4		
	事務部	節電、ゴミ減量、グリーン購入の推進。	4	4			
	サイエンス科	オープンスクールや中学校・塾訪問での教育内容の説明や体験講座のサイエンス科進学希望者増加	4	4	4		
	② 特色ある教育活動の推進（S S H、海外留学等）	4月～9月	10月～3月	年間			
部・学年等の実践内容	生徒指導部	登校指導ならびに下校指導	4	5	5	4.2	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導においては受験を意識しつつも個々の個性、能力に目を向け、様々な選択肢を示して欲しい。 探究活動の普通科への導入について今後も力を入れて欲しい。 サイエンス科のICT活用は、段階的に目標を設定していけば良いのではないか。
	進路指導部	「教養講座」「進路講演会」の実施を通じた進路意識の向上。	4	4	4		
		「星琳キャリア塾」を通じた、生徒の社会的・職業的自立。	4	4	4		
	教育開発部	3年間を見通した本校独自の探究活動計画の作成	4	4	4		
		外部人材（大学や企業など）と連携した探究活動の充実	4	4	4		
		サイエンス科独自の探究活動の充実	4	4	4		
		姉妹校（タイ）などとの交換留学の実施	5	5	5		
		校内や県内の国際交流活動の実施	5	5	5		
		サイエンス科の探究活動で開発した教材や指導法の普通科への導入	4	5	5		
		主幹事校としてM S E Cの構築や諸行事の企画・運営	5	5	5		
部・学年等の実践内容	1学年	家庭における学習習慣の確立（課題を丁寧に行う習慣の育成）	4	4	4	4.2	<ul style="list-style-type: none"> 探究的視点」を包含する問い合わせによる思考力・表現力の育成及び新たな価値を生み出す生徒の育成 科学人材育成の拠点校として、「探究的視点」を包含する問い合わせによる思考力・表現力の育成と、既成概念にとらわれることなく新たな価値を生み出す生徒の育成 「探究的視点」を包含する問い合わせによる思考力・表現力の育成と新たな発見や、既成概念にとらわれない新たな価値を生み出す生徒の育成。
		読書習慣の確立（朝の読書・図書館の活用や調べ学習の設定）	3	3	3		
		「探究的視点」を包含する問い合わせによる思考力・表現力の育成及び新たな価値を生み出す生徒の育成	3	4	4		
	2学年	科学人材育成の拠点校として、「探究的視点」を包含する問い合わせによる思考力・表現力の育成と、既成概念にとらわれることなく新たな価値を生み出す生徒の育成	4	4	4		
		「探究的視点」を包含する問い合わせによる思考力・表現力の育成と新たな発見や、既成概念にとらわれない新たな価値を生み出す生徒の育成。	4	4	4		
		探究活動における、デザイン思考を用いた独創的なテーマ設定	3	4	4		
	3学年	I C T（1人1台端末）活用による、探究活動における研究の加速化	3	3	3		
		サイエンス科生徒主導でのわくわくサイエンス教室（年2回）の実施、および、サイエンス科で行っている活動の広報	4	4	4		
		探究活動における、デザイン思考を用いた独創的なテーマ設定	3	4	4		
部・学年等の実践内容	③ 地域・PTAとの連携	4月～9月	10月～3月	年間	4.4	4.5	<ul style="list-style-type: none"> 地域活動やPT A活動を積極的に行い、学校職員と地域、保護者が顔を合わせる機会をたくさん作って欲しい。 星琳祭などは地域に積極的にPRしても良いのでは。 多様化する家庭環境への先生方の配慮は十分にされていると思うが個人の将来につながる支援を引き続きお願いしたい。
	生徒指導部	校内の活動時間の確認と遵守	5	4			
		危機管理マニュアルに基づいた日常からの備え	4	4			
	図書部	読書活動を推進するため、ビブリオバトルの実施。	4	4			
	渉外厚生部	P T A総会への保護者参加の更なる向上	5	5			
		多様化する家庭環境に配慮し、各種P T A活動への自主的参加の促進	4	4			
		懇親会や講演会、視察等の立案・計画・実施とP T A活動に対する保護者の満足度の向上	5	5			
		各種活動に対する意見の集約と、以降の活動の質の更なる向上	5	5			
	環境保健部	保健衛生の観点による、トイレ清掃の日常的な指導	4	4			
		定期健康診断の完全実施	5	5			
		生徒の実態に応じた保健指導・健康教育の推進	4	4			
		教室の換気など感染予防の指導	4	4			
		宮崎県防災教育資料集に基づいた、日頃から防災意識の向上に努める教育実践	4	4			
	教育開発部	職場の執務環境の整備	4	4			
		外部人材（大学や企業など）と連携した探究活動の充実	4	4			
		校務支援システムを用いた、部活動や学級役員、住所や保護者の緊急連絡先などの生徒情報の管理	4	4			
2学年	情報企画部	情報ツールを活用した、保護者への連絡と生徒の情報や成績の共有	4	5	4	4.5	<ul style="list-style-type: none"> 星琳祭などは地域に積極的にPRしても良いのでは。 多様化する家庭環境への先生方の配慮は十分にされていると思うが個人の将来につながる支援を引き続きお願いしたい。
		生徒を理解し、保護者との連携を深めるための二者面談や第三者面談の実施	4	5			

④	広報活動の充実		4月～9月	10月～3月	年間		
部・学年等の実践内容	教務	学校案内パンフレット作成	5	5	5		
		高校説明会、塾・中学校説明会の実施	3	5	4		
		オープンスクールの実施	5	5	5		
		学校公開の実施	3	5	4		
	生徒指導部	危機管理マニュアルに基づいた日常からの備え	4	4	4		
	進路指導部	新入試の情報の提供。	4	4	4		
		進路揭示版の有効活用。	3	4	4		
	図書部	読書活動を活性化するため、ビブリオバトルの会の拡大。	4	4	5		
	環境保健部	地域・保護者との連携を深める学校保健委員会の実施	4	4	4		
		地域と連携して防災意識の向上に努める。	5	5	5		
		PTA総会への保護者参加の更なる向上	5	5	5		
		多様化する家庭環境に配慮し、各種PTA活動への自主的参加の促進	4	4	4		
		懇親会や講演会、観察等の立案・計画・実施とPTA活動に対する保護者の満足度の向上	5	5	5		
	涉外厚生部	各種活動に対する意見の集約と、以降の活動の質の更なる向上	5	5	5		
		外部人材（大学や企業など）と連携した探究活動の充実	4	4	4		
		ホームページ・ブログ・通信等を積極的に活用した、特色ある教育活動の広報	4	4	4		
		プレスリリースを積極的に行い、報道機関による広報の充実	4	4	4		
		MSECを通じた、本校で開発した教材や指導法の普及	4	4	4		
	情報企画部	ホームページや県教育委員会Xを用いた、学校行事や教育活動の効果的な配信	2	3	3		
	サイエンス科	探究活動における、デザイン思考を用いた独創的なテーマ設定	3	4	4		
		プロジェクト式授業等でのハイレベルな実験（年2回）の実施、および、サイエンス科で行っている活動の紹介	4	4	4		
		オープンスクールや中学校・塾訪問での教育内容の説明や体験講座のサイエンス科進学希望者増加	4	4	4		
		サイエンス科独自パンフレットおよびDVD・通信の作成と活用	4	4	4		
⑤	不登校生に対する総合支援の推進		4月～9月	10月～3月	年間		
年等の実	教務部	遠隔授業の認定に関する内規の整備	3	3	3	3.7	4.0
	生徒指導部	合理的配慮の必要な生徒への対応	4	4	4		
	情報企画部	遠隔授業の機材整備	3	4	4		

2.	確かな学力の保持		達成度	達成度	学校達成度評価	平均	平均	学校関係者評価コメント
⑥	わかる授業・力のつく授業の実践		4月～9月	10月～3月	年間			
部・学年等の実践内容	教務部	PPDACサイクルを意識した授業の推進と授業研究	4	4	4	4.0	4.3	興味関心をそそる授業展開については、大変苦労や工夫をされていると評価できる。 ・情報過多の生活環境の中で、情報処理能力、思考力、判断力ことが重要。 ・アクティブラーニングも積極的にされているようである。 ・睡眠、栄養面などの生活面についての授業も実践してはどうか。
	生徒指導部	安心して授業を受けることのできる環境整備	3	4	4			
	進路指導部	授業の充実と自宅学習習慣の確立による基礎学力の定着	4	3	4			
		放課後講座(北辰タイム)・鍊成講座の検証と工夫・改善。	4	4	4			
	情報企画部	教科指導でのICTの活用による、生徒への興味・関心の向上と分かりやすい授業の実現	3	4	4			
	1学年	「わかる授業」、「力のつく授業」の展開と、理解度を高めるためのICT機器の活用	4	4	4			
	2学年	生徒が授業に集中して臨み、学習内容の理解と定着を図るために授業研究の充実と、図書館やICTの適切な活用と生徒の意識改革	4	4	4			
	3学年	生徒の状況に応じた授業や課題の工夫と、学習に対する自信、大学入学共通テストで求められる力（思考力・判断力・表現力・読解力等）の育成。	4	4	4			
⑦	個に応じた学習機会の設定		4月～9月	10月～3月	年間			
部・学年等の実践内容	教務部	大学受験に対応したカリキュラムの編成	4	4	4	3.9	4.3	・「身近な国公立大に数多く」というのは本当にその通りだと感じた ・難関大の合格実績も盛り上がるが、まずは宮大を中心とした地元大学を目指す生徒を育成していただければと感じる。 ・朝課外を廃止し数年経過するが、主体的、かつ個に合わせた学習の機会となっているとよい。
		考査時間割の早期提示と家庭学習の質と量の向上	4	4	4			
		欠席・遅刻の多い生徒や学業不振生徒への対応	4	4	4			
	生徒指導部	教室周辺の安全点検の実施	4	4	4			
		合理的配慮の必要な生徒への対応	4	4	4			
		不登校生徒への組織的な対応の実現	4	4	4			
	進路指導部	推薦基準の検証と妥協な推薦受験の抑制。	3	3	3			
		生徒の特性を生かした受験指導の研究。	3	3	3			
		学力向上委員会、進路検討会の実施。	4	3	4			
	図書部	模試・実力考査等の成績の分析とその効果的な活用。	4	3	4			
部・学年等の実践内容	教育開発部	ACTや調べ学習のための読書活動の活性化	3	3	3			
		国際交流スクールアラブで週1回のランチミーティングや国際交流への参加促進を積極的に行い、国際化に対応できる生徒の育成	4	4	4			
		外部団体の主催する留学や国際交流行事の積極的な紹介	5	5	5			
	1学年	家庭における学習習慣の確立(課題を丁寧に行う習慣の育成)	4	4	4			
		読書習慣の確立(朝の読書、図書館の活用や調べ学習の設定)	3	3	3			
		上位者層の成績向上と意識高揚を図るための北辰タイムの活用	4	4	4			
		部活動や学習において、さらに上を目指して努力する生徒の育成	3	4	4			
	2学年	家庭学習習慣確立のための、「学習の記録」等の活用と、適切なアドバイスを行い、学級や学年で切磋琢磨する雰囲気の醸成	4	4	4			
		学習方法を具体的に提示し、課題への取り組みの徹底	3	4	4			
		上位者層の意識と学力の向上、中間・下位層の基礎基本の徹底のための放課後講座の工夫	3	4	4			
3学年		部活動でも学習面でも上位を目指すための努力を惜しまない生徒の育成	4	4	4			
		テストや宅習調査の結果等をもとにした生徒の実態把握と、個々の生徒に応じた適切な激励。	4	4	4			
		上位者層の更なる学力向上と下位層の基礎基本の徹底のための放課後講座の工夫、個別指導や添削指導の実施。	4	4	4			
		部活動では上位(全国・九州大会出場等)、学習では難関大学を含めた国公立大学進学等を目指し努力する生徒の育成。	4	4	4			
⑧	サイエンス科	教科担任会・進路検討会を通じた、生徒の学力の現状の把握・共有、および、学習指導への活用	3	4	4	3.7	4.0	
	理解度を高めるICT機器の活用		4月～9月	10月～3月	年間			
部・学年等の実践内容	教務部	ICT機器の活用推進と授業研究	3	4	3			
	生徒指導部	スマホ・タブレットを使用する際の安全教育	4	4	4			
	教育開発部	1人1台の端末やDSの学習内容を積極的に活用した、研究内容の充実	3	3	3			
	情報企画部	教科指導でのICTの活用による、生徒への興味・関心の向上と分かりやすい授業の実現	3	4	4			
		すべての教室でICT活用をした授業を可能にするプロジェクトやネットワークなどの学校のICT環境の整備	4	4	4			
	1学年	「わかる授業」、「力のつく授業」の展開と、理解度を高めるためのICT機器の活用	4	4	4			
	2学年	授業研究の充実と、図書館やICTを適切に活用することによる生徒の意識改革	4	5	4			
	3学年	生徒の状況に応じた授業や課題の工夫と、学習に対する自信、大学入学共通テストで求められる力（思考力・判断力・表現力・読解力等）の育成。	4	4	4			
	サイエンス科	ICT(1人1台端末)活用による、探究活動における研究の加速化	3	3	3			

部・学年等の実践内容	(9) 探究的視点を包含する授業の構築		4月～9月	10月～3月	年間	4.1	4.0	<ul style="list-style-type: none"> SSH、探究学習は北高の中核となる重要ポイントだと思う。さらに推進していただきたい。 探究活動を通して、問を持つことの大切さ、探究すること、問を明らかにすることへの面白さを、生徒自身が感じられるよう、今後も育成をお願いしたい。
	生徒指導部	スマホ・タブレットを使用する際の安全教育	4	4	4			
	進路指導部	推薦入試対策の工夫・改善。	4	4	4			
	図書部	図書館の利用と活性化	4	4	4			
	教育開発部	探究的な学びを実現するための授業改善の推進	4	4	4			
		サイエンス科の探究活動で開発した教材や指導法の普通科への導入	4	5	5			
	1学年	「探究的視点」を包含する問い合わせや発表による思考力・表現力の育成及び新たな価値を生み出す生徒の育成	3	4	4			
	2学年	授業研究の充実と、図書館やICTを適切に活用することによる生徒の意識改革	4	5	4			
		科学人材育成の拠点校として、「探究的視点」を包含する問い合わせや発表による思考力・表現力の育成と、既成概念にとらわれることなく新たな価値を生み出す生徒の育成	4	4	4			
	3学年	生徒の状況に応じた授業や課題の工夫と、学習に対する自信、大学入学共通テストで求められる力（思考力・判断力・表現力・読解力等）の育成。	4	4	4			
		「探究的視点」を包含する問い合わせや発表による思考力・表現力の育成と新たな発見や、既成概念にとらわれない新たな価値を生み出す生徒の育成。	4	4	4			
部・学年等の実践内容	(10) 「探究」による思考力・育成表現力の育成		4月～9月	10月～3月	年間	4.1	4.0	<ul style="list-style-type: none"> 物事の本質を見極め、瞬時に問題点を指摘でき、それを解決しようとする姿勢が社会に貢献できる能力である。主体性を持って進めるように探究の授業からの育成を目指してほしい。 普通科への探究活動の導入前後を比較し、思考力が身についていることを期待する。 サイエンス科で開発したスキルの普通科への導入は強みとして外部に主張できることであると思う。
	教育開発部	3年間を見通した本校独自の探究活動計画の作成	4	4	4			
		サイエンス科独自の探究活動の充実	4	4	4			
		サイエンス科の探究活動で開発した教材や指導法の普通科への導入	4	5	5			
	1学年	「探究的視点」を包含する問い合わせや発表による思考力・表現力の育成及び新たな価値を生み出す生徒の育成	3	4	4			
	2学年	科学人材育成の拠点校として、「探究的視点」を包含する問い合わせや発表による思考力・表現力の育成と、既成概念にとらわれることなく新たな価値を生み出す生徒の育成	4	4	4			
		生徒の状況に応じた授業や課題の工夫と、学習に対する自信、大学入学共通テストで求められる力（思考力・判断力・表現力・読解力等）の育成。	4	4	4			
	3学年	「探究的視点」を包含する問い合わせや発表による思考力・表現力の育成と新たな発見や、既成概念にとらわれない新たな価値を生み出す生徒の育成。	4	4	4			
		企業や専門家、各種発表会での研究成果の積極的な発表	3	4	4			
	サイエンス科	サイエンス科生徒主導でのわくわくサイエンス教室（年2回）の実施、および、サイエンス科で行っている活動の広報	4	4	4			

3.	自主自立の精神の育成	達成度	達成度	学校達成度評価	平均	平均	学校関係者評価コメント
(11)	規律に基づく生活習慣の確立	4月～9月	10月～3月	年間			
部・学年等の実践内容	教務部	考査時間割の早期提示と家庭学習の質と量の向上	4	4	4		
	生徒指導部	登校指導ならびに下校指導	4	5	5		
		あいさつ指導など、生徒職員の良好な関係を築くためのアプローチ	3	4	4		
		校内の活動時間の確認と遵守	5	4	5		
		制服の着用と付隨する規則の確認	3	3	3		
	環境保健部	「北高生として守るべきこと」の常時指導	3	4	4		
		校則の見直しと議論・調整の場の設定	3	4	4		
	情報企画部	教室や廊下の棚の整理整頓など、環境美化の観点による日常的な指導	4	4	4		
		清掃の予鈴と同時に取りかかる準備ができる指導	3	4	4		
	1学年	良好な人間関係を築く基盤となるマナー・礼法に対する指導	4	4	4		
部・学年等の実践内容	2学年	時間や約束を守り、清掃に真摯に取り組むなど、学校生活や社会において求められる基本的な力の育成指導	4	5	4		
	3学年	下級生の良き手本となるための、学校生活すべてにおける最上級生としての意識向上	3	3	3		
	サイエンス科	通級指導担当と連携した、特性のある生徒の早期把握と手厚い早期対応	4	4	4		
(12)	自治活動による愛校心の高揚	4月～9月	10月～3月	年間			
生徒指導部	制服の着用と付隨する規則の確認	3	3	3			
	部室ならびに部活動における安全点検の実施	3	3	3			
	行事の計画立案と生徒による運営を支援	3	4	4			
	行事を通して生徒のリーダー性を醸成	3	4	4			
	校則の見直しと議論・調整の場の設定	3	4	4			
図書部	生徒会役員改選の選挙を通して、主権者教育を実施	3	4	4			
	「北圖」の発行、星琳祭・ビブリオバトルなどイベントの企画運営を生徒主体的に実施	4	4	4			
環境保健部	「図書カフェ」ボーラースター開催など、読書以外のイベントを実施	3	3	3			
	自治活動による生徒美化委員会の活性化	3	5	4			
部・学年等の実践内容	1学年	生徒が主体的に活躍できる場の設定と適切な評価	4	4	4		
		清掃活動や行事の準備・後片付け等での奉仕の精神の育成	3	3	3		
		宮崎北高生としての自覚と誇りを持ち、協力して課題を解決する生徒の育成	3	4	4		
	2学年	生徒が学校行事等で主体的に活躍できる場の設定	4	5	4		
		宮崎北高生として自覚と誇りを持たせ、互いの個性を認め合いながら協力して様々な課題を解決していく生徒の育成	4	5	4		
		学校行事、学級活動、部活動等に積極的に関わる「つくる立場」「まとめ立場」の意識をもたらせる活動	4	4	4		
	3学年	清掃活動や奉仕活動、行事の準備・後片付け等に熱心に取り組む奉仕の精神の育成	3	3	3		
		下級生の良き手本となるための、学校生活すべてにおける最上級生としての意識向上	3	3	3		
		宮崎北高生としての自覚と誇りを持ち、互いの個性を認め合いながら協力して様々な課題を解決していく生徒の育成	4	4	4		
		宮崎北高生としての自覚と誇りを持ち、互いの個性を認め合いながら協力して様々な課題を解決していく生徒の育成	4	5	5		
(13)	公共心と道徳観の育成	4月～9月	10月～3月	年間			
部・学年等の実践内容	生徒指導部	登校指導ならびに下校指導	3	5	4		
		アンケートやアセス調査の活用・いじめの未然防止	4	5	5		
	環境保健部	清掃の仕方の指導と工夫	4				
		良好な人間関係を築く基盤となるマナー・礼法に対する指導	4	4	4		
	1学年	清掃活動や行事の準備・後片付け等での奉仕の精神の育成	3	3	3		
		宮崎北高生としての自覚と誇りを持ち、協力して課題を解決する生徒の育成	3	4	4		
		時間や約束を守り、清掃に真摯に取り組むなど、学校生活や社会において求められる基本的な力の育成指導	4	5	4		
	2学年	部活動やボランティア活動等への積極的参加を促すとともに、清掃活動等も熱心に取り組む生徒の育成	4	5	4		
		宮崎北高生として自覚と誇りを持たせ、互いの個性を認め合いながら協力して様々な課題を解決していく生徒の育成	4	5	4		
		清掃活動や奉仕活動、行事の準備・後片付け等に熱心に取り組む奉仕の精神の育成	3	3	3		
	3学年	宮崎北高生としての自覚と誇りを持ち、互いの個性を認め合いながら協力して様々な課題を解決していく生徒の育成	4	4	4		
		清掃活動や奉仕活動、行事の準備・後片付け等に熱心に取り組む奉仕の精神の育成	4	4	4		
	サイエンス科	協調性やコミュニケーション力の養成を目的としたピアサポート活動の実施	3	3	3		

・礼儀正しく、挨拶も気持ちが良い。髪型も校則が変わったが、問題なく爽やかで好印象な生徒がほとんどである。

・コロナ禍を経験し自治活動には消極的傾向にある生徒も多いかと思う。

・主体性を強化し特色ある学校づくりを生徒ができるよう支援をお願いしたい。

・優しく、他者に共感、理解する力は持ち備えていると思うが、他者のために働く機会は少ない。地域清掃や福祉施設での活動など、多様な活動を通じて社会貢献の意義を体験できること良い。

(14)自己肯定感の育成（部活動・各種活動の推奨）		4月～9月	10月～3月	年間		
部・学年等の実践内容	生徒指導部	部室ならびに部活動における安全点検の実施	4	3	3	4.0
		行事の計画立案と生徒による運営を支援	3	4	4	
		行事を通して生徒のリーダー性を醸成	3	4	4	
		安心して部活動に専念することができる環境づくり	4	4	4	
		不登校生徒への組織的な対応の実現	4	4	4	
		アンケートやアセス調査の活用・いじめの未然防止	4	5	5	
	図書部	「北園」の発行、星琳祭・ビブリオバトルなどイベントの企画運営を生徒主体的に実施	4	4	4	
		「図書カフェ」ボーラースター開催など、読書以外のイベントを開催	3	3	3	
	教育開発部	外部団体の主催する留学や国際交流行事の積極的な紹介	5	5	5	
		生徒が主体的に活躍できる場の設定と適切な評価	4	4	4	
		部活動や学習において、さらに上を目指して努力する生徒の育成	3	4	4	
		宮崎北高生としての自覚と誇りを持ち、協力して課題を解決する生徒の育成	3	4	4	
1学年	2学年	生徒が学校行事等で主体的に活躍できる場の設定	4	5	4	4.5
		部活動やボランティア活動等への積極的参加を促すとともに、清掃活動等も熱心に取り組む生徒の育成	4	5	4	
		上位者層の意識と学力の向上、中間・下位層の基礎基本の徹底のための放課後講座の工夫	4	4	4	
		宮崎北高生として自覚と誇りを持たせ、互いの個性を認め合いながら協力して様々な課題を解決していく生徒の育成	4	5	4	
		学校行事、学級活動、部活動等に積極的に関わる「つくる立場」「まとめる立場」の意識をもたらした活動	4	4	4	
	3学年	部活動では上位（全国・九州大会出場等）、学習では難関大学を含めた国公立大学進学等を目指し努力する生徒の育成。	4	4	4	
		宮崎北高生としての自覚と誇りを持ち、互いの個性を認め合いながら協力して様々な課題を解決していく生徒の育成	4	4	4	
		企業や専門家、各種発表会での研究成果の積極的な発表	3	4	4	
		サイエンス科				
		対話を軸とした自尊感情の育成	4月～9月	10月～3月	年間	
部・学年等の実践内容	生徒指導部	行事を通して生徒のリーダー性を醸成	3	4	4	3.9
		校則の見直しと議論・調整の場の設定	3	4	4	
		生徒会役員改選の選挙を通して、主権者教育を実施	3	4	4	
	環境保健部	学年単位での清掃時の見回りによる濃淡のない清掃指導	4			
		生徒を理解し、保護者との連携を深めるための二者面談や第三者面談の実施	4	5	4	
		生徒の実態を把握し保護者との連携を図り、進路実現に向けて本気にさせる二者面談、第三者面談の実施	4	4	4	
	サイエンス科	通級指導担当と連携した、特性のある生徒の早期把握と手厚い早期対応	4	4	4	
		協調性やコミュニケーション力の養成を目的にしたピアサポート活動の実施	3	3	3	

・それぞれの部活や活動において、楽しそうに活動できていると思う。

・先生方は生徒への声かけなど良くされていると思う。見てくれている、ということが生徒に伝わると安心感につながるので引き続きお願いしたい。

4.	個に応じた進路支援	達成度	達成度	学校達成度評価	平均	平均	学校関係者評価コメント
部・学年等の実践内容	(16) 対外模試での目標値の設定	4月～9月	10月～3月	年間	3.9	4.0	・朝課外の廃止の評価も行いながら、自宅学習や自己学習のあり方を考えてもらえると良い。
	生徒指導部 安心して授業を受けることのできる環境整備	4	4	4			
	進路指導部 模試・実力考査等の成績の分析とその効果的な活用。	4	3	4			
	1学年 面談による生徒の実態把握と適切なアドバイス及び生徒が高い目標を掲げて努力を重ねるような仕掛けの実施 上位者層の成績向上と意識高揚を図るための北辰タイムの活用	4	4	4			
	2学年 系統的な進路学習の計画、早めの進路目標決定、模試の目標設定を意識した学習といねいな振り返りの実施	4	4	4			
	3学年 生徒の状況に応じた授業や課題の工夫と、学習に対する自信、大学入学共通テストで求められる力（思考力・判断力・表現力・読解力等）の育成。 上位者層の更なる学力向上と下位層の基礎基本の徹底のための放課後講座の工夫、個別指導や添削指導の実施。	4	4	4			
	サイエンス科 教科担任会・進路検討会を通じた、生徒の学力の現状の把握・共有、および、学習指導への活用 各学年サイエンス科の進路に関する目標値の設定	4	4	4			
	3学年 各学年サイエンス科の進路に関する目標値の設定	3	3	3			
	(17) 学力推移の検証と情報の共有	4月～9月	10月～3月	年間			
	進路指導部 授業の充実と自宅学習習慣の確立による基礎学力の定着 放課後講座（北辰タイム）・鍊成講座の検証と工夫・改善 学力向上委員会、進路検討会の実施。 模試・実力考査等の成績の分析とその効果的な活用。	3	3	3			
部・学年等の実践内容	情報企画部 校務支援システムを用いた、定期考査・出席状況などの成績の一元管理及び生徒指導や指導要録、調査書の作成のための活用	5	5	5	4.0	4.3	・朝課外の廃止の評価も行いながら、自宅学習や自己学習のあり方を考えてもらえると良い。
	1学年 面談による生徒の実態把握と適切なアドバイス及び生徒が高い目標を掲げて努力を重ねるような仕掛けの実施 上位者層の成績向上と意識高揚を図るための北辰タイムの活用	4	4	4			
	2学年 上位者層の意識と学力の向上、中間・下位層の基礎基本の徹底のための放課後講座の工夫 系統的な進路学習の計画、早めの進路目標決定、模試の目標設定を意識した学習といねいな振り返りの実施 生徒の進路実現に向けた大学入試の研究と積極的な情報提供	4	4	4			
	3学年 生徒の進路実現に向けた大学入試の研究と積極的な情報の提供 上位者層の更なる学力向上と下位層の基礎基本の徹底のための放課後講座の工夫、個別指導や添削指導の実施。	4	4	4			
	サイエンス科 教科担任会・進路検討会を通じた、生徒の学力の現状の把握・共有、および、学習指導への活用	4	4	4			
	(18) 職業観・勤労観を培う教養講座・講話の設定	4月～9月	10月～3月	年間			
	進路指導部 「星琳キャリア塾」による生徒の社会的・職業的自立 「教養講座」「進路講演会」を通した進路意識の向上 オープンキャンパス参加等を利用した進路先の早期決定 大学入試や小論文・面接指導に関する職員研修会の実施	3	4	4	4.1	4.5	・推薦入試対策は大変と思う。学力も担保しつつご指導をお願いしたい。
	1学年 教養講座やオープンキャンパス等への積極的な参加の呼び掛けと生徒の進路研究の支援	4	4	4			
	2学年 教養講座、各種講演会・国際交流活動、オープンキャンパス等への積極的な参加の促進と生徒の進路意識の高揚	4	5	5			
	サイエンス科 1年生での宿泊研修や学期1回のサイエンス科集会を通じた、帰属意識や進路・学習・探究に関する意識の高揚	4	5	5			
	(19) 面談による進学意識の向上	4月～9月	10月～3月	年間			
部・学年等の実践内容	進路指導部 進路希望調査の実施と進路意識の高揚 進路指導プラン確立の実施 推薦基準の検証と生徒の特性を生かした受験指導の研究 学力向上委員会、進路検討会等の分析と効果的な活用	4	4	4	3.9	4.3	・推薦入試対策は大変と思う。学力も担保しつつご指導をお願いしたい。
	情報企画部 情報ツールを活用した、保護者への連絡と生徒の情報や成績の共有	4	5	5			
	1学年 面談による生徒の実態把握と適切なアドバイス及び生徒が高い目標を掲げて努力を重ねるような仕掛けの実施	4	4	4			
	2学年 生徒を理解し、保護者との連携を深めるための二者面談や第三者面談の実施	4	5	4			
	3学年 テストの結果や宅習調査の結果等をもとにした生徒の実態把握と、個々の生徒への適切な助言 生徒の実態を把握し保護者との連携を図り、進路実現に向けて本気にさせる二者面談、第三者面談の実施	4	4	4			
	サイエンス科 少人数学級編成を行い、担任・副担任全員で定期的な面談の実施と学力の向上	3	4	4			
	(20) 推薦入試への組織的対応	4月～9月	10月～3月	年間	3.6	4.3	・ 推薦入試対策は大変と思う。学力も担保しつつご指導をお願いしたい。
	進路指導部 大学入試や小論文・面接指導に関する職員研修会の実施 推薦基準の検証と生徒の特性を生かした受験指導の研究	2	3	3			
	2学年 系統的な進路学習の計画、早めの進路目標決定、模試の目標設定を意識した学習といねいな振り返りの実施	3	3	3			
	3学年 生徒の実態を把握し保護者との連携を図り、進路実現に向けて本気にさせる二者面談、第三者面談の実施	4	4	4			
	サイエンス科 探究活動における実績を利用した進路実現	4	4	4			

5. 協働性・同僚性の高い職員		達成度	達成度	学校達成度評価	平均	平均	学校関係者評価コメント
⑪ 法令遵守を堅持する職員	J S T と密に連絡を取り、SSHの適切な業務遂行と予算執行	4	5	5			
教育開発部	コンプライアンス意識を持った職務の遂行	5	5	5			
事務部	準公金の適正化と納期内収納の促進	5	4	4			
管理職	教育委員会からの通知文等の職員への周知。 気になる職員の言動への面談及びフィードバックでの適切な指導と支援。 職員研修を通じた、公務員、教員としての道徳観、倫理観の向上。	5 4 4	5 4 4	5 4 4	4.5	4.8	・ICT活用については引き続き、研修等参加にて活用推進を期待する。
⑫ 新たな技能・スキル獲得に意欲的な職員	4月～9月	10月～3月	年間				
図書部	マイラインサービスの活用、国立国会図書館や他の図書館の活用を実践	4	4	4			
教育開発部	各担当者が責任もってSSH研究開発を行い、部員全員で協力 他校視察や情報収集を積極的に行い、本校のこれまでのSSHの取組のまとめを実施 職員会議等で研修を行い、SSH事業や探究活動、国際交流の理解促進	4 3 4	5 4 4	5 4 4	4.0	4.3	
情報企画部	タブレットを効果的に活用した指導事例の収集や、教員のICT活用指導力の向上のための職員研修の実施	2	3	3			
⑬ 研修を活用し汎用的資質の向上に励む職員	4月～9月	10月～3月	年間				
教務部	一人一台端末を利用した授業の推進 年間研修計画の作成	3 4	2 4	3 4			
生徒指導部	人権教育に関わる職員研修の実施 生徒指導に関わる職員研修の実施	4 4	4 4	4 4			
環境保健部	心肺蘇生法、A E D 講習の全職員受講	4	4	4	3.6	4.0	・タブレット活用は先生方によって差があるのか。良い取組の例を全体に広げて聞いていただきたい。
教育開発部	職員会議等で研修を行い、SSH事業や探究活動、国際交流の理解促進	4	4	4			
情報企画部	タブレットを効果的に活用した指導事例の収集や、教員のICT活用指導力の向上のための職員研修の実施	2	2	2			
管理職	『新しい研修制度』の周知及びキャリアに応じた研修受講の推奨。	4	4	4			
⑭ 要支援生徒に組織的に対応できる職員	4月～9月	10月～3月	年間				
生徒指導部	あいさつ指導など、生徒職員の良好な関係を築くためのアプローチ 生徒の健康管理 生徒指導に関わる職員研修の実施 リクエスト週間など生徒一人ひとりの意見に耳を傾ける機会の設定 合理的配慮の必要な生徒への対応 不登校生徒への組織的な対応の実現	3 5 4 4 4 4	4 5 4 5 4 4	4 5 4 5 4 4	4.3	4.3	
サイエンス科	通級指導担当と連携した、特性のある生徒の早期把握と手厚い早期対応	4	4	4			
管理職	一次支援、二次支援、三次支援など、段階に応じた支援体制の構築。	4	4	4			
⑮ 人権を重んじる職員	4月～9月	10月～3月	年間				
生徒指導部	あいさつ指導など、生徒職員の良好な関係を築くためのアプローチ 人権教育に関わる職員研修の実施 生徒指導に関わる職員研修の実施 アンケートやアセス調査の活用・いじめの未然防止	3 4 4 4	4 5 4 4	4 5 4 4	4.3	4.3	・サインを見逃さず、即対応できる体制を整えて欲しい。初動が大事。
図書部	週刊「ダイバーシティ」の発刊など、人権・道徳教育との連携を実施	4	4	4			
事務部	学校徴収金や各種証明等の事務処理における個人情報の厳正な取扱い	5	5	5			
管理職	パワハラ・セクハラアンケート結果を検証による、留意事項の顕在化と職員の感度の向上。	4	4	4			

6.	風通しのよい職場		達成度	達成度	学校達成度評価	平均	平均	学校関係者評価コメント
(26)	担当業務の量・質の平準化		4月～9月	10月～3月	年間			
部・学年等の実践内容	教育開発部	各担当者が責任もってSSH研究開発を行うとともに、部員全員で協力	5	5	5	4.0	4.3	・進学校ということもあり、先生方の負担は大きい。心身の健康に配慮されながら、業務にあたっていただきたい。
		国際交流推進委員会を設置し、他分掌の職員との協動的な運営	3	3	3			
	管理職	業務単位での難易度の数値化及び個々の教職員の担う業務総量の均一化。	4	4	4			
(27)	年休・休暇の弾力的な取得推奨		4月～9月	10月～3月	年間			
年等の実	管理職	各種会議の開催数の減少及び職員が裁量できる時間の確保。	4	4	4	4.0	4.3	
		行事の精選や日程調整による、年休・休暇を取得しやすい環境の醸成。	4	4	4			
(28)	時間外勤務「45時間未満/月」の推進		4月～9月	10月～3月	年間			
年等の実	情報企画部	自動採点システムを活用による、正確で迅速な採点業務への効率化	4	4	4	4.0	4.3	
	管理職	超勤傾向の強い職員の特定並びに勤務態様の改善・見直しへについて話し合う場の設定。	4	4	4			
(29)	職員間連携の強化（報・連・相の定着）		4月～9月	10月～3月	年間			
部・学年等の実践内容	涉外厚生部	歓送迎会等の予算の準備やその他の行事について準備および補佐。職員間およびPTAの連携強化	5	5	5	4.4	4.8	
	環境保健部	職員の健康相談、心の健康対策の実施と衛生委員会の充実	4	4	4			
	教育開発部	各担当者が責任もってSSH研究開発を行うとともに、部員全員で協力	5	5	5			
	情報企画部	GoogleDriveや校内ポータルサイトの活用による、Webサイト上でのコミュニケーション及び連絡・報告等の情報の共有	4	4	4			
	管理職	問題対応は初動で決まることの周知及び管理職による情報整理の一元化の徹底。	4	4	4			
(30)	業務全般におけるICT活用の拡充		4月～9月	10月～3月	年間			
学年等の実践	教務部	一人一台端末を利用した授業の推進	3	2	3	3.5	4.3	
	情報企画部	ICTを活用しペーパーレス化を推進	2	2	2			
		校務支援システムを用いた、定期考査・出席状況などの成績の一元管理及び生徒指導や指導要録、調査書の作成のための活用	5	5	5			
	管理職	ICT機器活用へ置換できる業務内容の整理し並びに職場内の効率化・合理化への機運の醸成。	4	4	4			